

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発 表雑誌等 又は発表 学会等の 名称	概 要
1 (学術論文) 保健師による「活動の対象とめざす成果」の記述の実態	共著	2017年2月	日本公衆衛生雑誌 64巻2号：61-69	無作為抽出した全国自治体の常勤保健師を対象に、自記式質問紙調査によって、日頃目標としている「活動の対象とめざす成果」が何かについて構文完成型設問での記述を求めた。調査票回収数 1,088 (67.4%)、有効回答数 961 (59.5%)。活動計画等の説明に必要な構文の要素（誰を対象に：対象/いつまでに：時間/どの程度：程度/何がどうなる：内容）が含まれているのかを分析した結果、時間と程度の要素の記述がとりわけ少なかった。また内容は、保健師としての活動実績を表す記述が多かった。保健師の活動特性や業務の現状の影響を考慮した研究と目標設定に関する教育的支援の検討が課題である。(福川京子、岡本玲子、小出恵子)
2 (学術論文) 行政保健師の引き継ぎ業務における準備資料の実態 - 経験年数と設置主体による比較 -	共著	2017年4月	日本公衆衛生看護学会誌 6巻1号：2-9	無作為抽出した全国の保健所・保健センターの常勤保健師を対象に、担当業務を後任に引き継ぐ際の引き継ぎ資料の内容の実態と属性との関連を明らかにした。自記式質問紙調査、配布施設数は 251、有効回答率 64.1%。引継ぎ資料の準備あり群において最も多かった項目は活動の実施目的であった。低かったのは健康課題と活動評価であり、経験年数が高いこと、設置主体が都道府県であることと有意な関連がみられた。準備あり群は、項目ごとの差が大きい実態が明らかになった。保健師が普段の保健活動を明文化できていない現状を示唆し、引き継ぎ業務の推進に向け、特に新任期への支援が必要と考えられた。(小出恵子、岡本玲子、草野恵美子、岩本里織、福川京子)
3 (報告・発表) 新人保健師の個別事例支援技術教育の実践への活用状況	-	2019年1月	第7回日本公衆衛生看護学会(山口)	個別事例支援技術の研修及び職場での教育的支援が、新任保健師の実践へどの程度活用されているのかを調査した。調査対象は A 県平成 29 年度研修を受講した行政の新任保健師 (1 年未満) 26 人。新任保健師は、とりわけ個別事例から地域の共通課題を考える技術への支援を必要としていた。また、個別事例から地域の共通課題を考える技術と記録技術については、主に研修が、対象への支援方法の判断・選択の技術については、主に職場の教育的支援が実践で活かされていた。個から地域への視点を強化した教育内容、職場内外の教育の役割と限界を吟味した補完性のある教育体制の構築の必要性が示唆された。(福川京子、西尾恵)
4 (報告・発表) Attempt of Construction of Cooperative Education System with Other Facilities for Diabetic Patients (糖尿病患者のための他施設協同教育システム構築の試み)	-	2020年2月	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Online)	To clarify conditions for constructing a cooperative education system with other facilities based on a survey for primary care doctor and diabetes certified nurse specialist (CNS). Of 65 physicians belonging to S city Medical Association to whom survey slip was sent by mail, 19 physicians responded they treated diabetic patients. Eight of them (42%) desired cooperation with CNS indicating dietary approach, method of exercise and hypoglycemia prevention in order as preferable contents of education. Conditions for visiting other facilities required by 14 CNSs in Okayama prefecture participated in the workshop included permission of hospital, understanding by their department and recognition as a professional activity. Contents of education they can provide included insulin injection, hypoglycemia and diabetes in order. (○Kazuko Sumiyoshi, Yasuko Shimizu, Toshiko Fukui, <u>Kyoko Fukukawa</u> , Kotoe Itami, Yoshimi Ikejiri, Kenichi Shikata)
5 新人保健師が語る「個別事例支援への責任」としての経験～本人のために役に立っているのかと迷いながら訪問に行く～		2024年1月	第12回日本公衆衛生看護学会(福岡)	A 県内行政機関所属の新人保健師(2年目)で承諾の得られた9人に半構造化面接として「個別事例支援への責任として思い起こす、最も印象に残った1年目の経験」について自由な語りを求めた。本稿は9人のうち新卒で保健所に勤務していたAの語り(2019年12月)を分析。入職直後に引継ぎされた在宅療養中のALS患者(本人)の家庭訪問の経験。全体に現れたテーマは【本人のために役に立っているのかと迷いながら訪問に行く】であった。Aの迷いは、自分なりに持ちうる知識と信念によって、よりよい方向に進むよう模索し続ける能動的活動において生じていた。自分が役に立てないと感じて、訪問の足が遠のくこともあったが、「このままでよいのか」と問い続け、保健師である自分、そして本人と家族の生活への意識の志向性が途切れることなく積み重なった。その結果が事例検討での触発であり、一步踏み出す動機になったと考えられる。それは本人と家族の生活をありのままに感じる力にもなり、雑談と病気の話の二項対立的理解を消失させ、本人との間主観的な交流を促進したと考えられた(福川京子)

